

体験型海外教育実地研究 -第5学年言語
「地球の人も言葉もつながっている！－日本の文化と言語－」
教育学研究科言語文化教育学専修 国語文化教育学専攻 吉浪徳香

1 はじめに

私が、体験型海外教育実地研究に参加した目的は、大きく次の二点である。一点目は、国際交流や異文化体験を自ら体験し、その体験を教育実践に生かすこと、二点目は、他国の言語教育について学ぶことである。

「世界のひとびと」という絵本がある。世界の人種・文化・言語・宗教・暮らしなどが世界の国々で全く違うことを紹介し「みんな違っていいってすてきでしょ。」というメッセージで終わっている。とても好きな絵本で、教室で子どもたちとよく読んでいた。世界に目を向けることの大切さ、多様であることの豊かさは、子どもたちに伝えたいといつも考えていたことである。機会があれば、体験をとおして子どもたちに伝えたいと考えていたので、今回のこの実地研究は、またとない機会であると感じた。

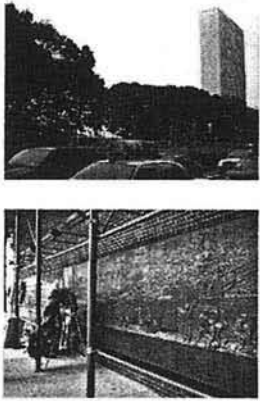
また私は、「読むこと」の力を学習者に定着させるにはどうしたらよいか、研究を行っている。OECD の PISA 調査をうけて、「読解力」向上は、大きな課題となっている。言語教育の大切さ、その現状を他国の母語教育、言語教育から学びたいと考えた。しかし、私は大学院で研修をさせていただいており、自分だけの意思では参加することはできない。そこで勤務校の校長に相談すると「なぜ言葉の教育が必要か、他国の教育を観て学んで来なさい。これからの教員は、内から外を観る目、外から内を観る目のどちらもが必要になる。」と背中を押してくださった。多くの人に支えられ参加できることに感謝しながら、上記の目的意識をもって、この実地研究に参加した。

2 実地研究の日程と概要

		Transportation	Activities	Loading
4/10	Tue	履修等, 説明会 L304		
4/19	Thu	履修届ほか書類提出締め切り		
5/31	Thu	1435-1700 L304	第1回 オリエンテーション	講演・フォーラムの打ち合わせ
6/8	Fri	1300-1700 C527	講演会	East Carolina Universityにおける初等教育教員養成 Dr.Carolyn Ledford Dr.Betty Peel (East Carolina University) G.R.Whitfield School(K-8)における異校種・異学年連携 Ms.Pam Juteen (G.R.Whitfield School)
6/9	Sat	1300-1630	広島ガーデンパレス	GPSC 第3回学校間国際交流フォーラム 実践報告、シンポジウム、レセプション
6/10	Sun	アステールプラザ、平和公園、宮島 GPSC 日本文化研修		
7/5	Thu	1435-1700 L304	第2回 事前研究1	個別研究テーマの設定、授業実践研究の内容と方法、 Exploris middle school での日本文化紹介の内容検討、米国文化体験計画の立案、昨年度参加者との交流
8/2	Tue	1435-1700 C527	第3回 事前研究2	授業の教材開発と指導法研究

		英文指導案の事前検討、個別研究テーマ(授業実践研究)の交流と協議		
8/30	Fri	1435-1700 L304 第4回 事前研究・打ち合わせ・旅程確認 Exploris middle school での日本文化紹介の内容検討、米国文化体験計画の立案、		
9/11	Tue	1330-1600 L304 第5回 事前研究・打ち合わせ・旅程確認・渡航準備 Exploris middle school での日本文化紹介のリハーサルと内容検討		
9/15	Sat	広島-成田 0745-0935 NH-3128 成田-ワシントン 1110-1045 NH-2 ワシントン- ローリー 1344-1448 UA-7183	広島空港集合 広島-成田 成田-ワシントン ワシントン-ローリー ホテル着・チェックイン	米国ノースカロライナ州 Raleigh Marriott Crabtree Valley 4500 Marriott Dr., Raleigh, NC 27612 TEL (919)781-7000 FAX (919)781-3059
9/16	Sun	  East Carolina University	ホテルロビー集合 ローリー-グリーンビル ホテル着・チェックイン 昼食・市内見学 East Carolina University 見学 海外実地研究 図書館・教材センター見学 ホテル着 ホテルロビー集合 事前打ち合わせと準備 (Ms.Carolyn Ledford Ms. Pam Justesen 他) ホテル着	米国ノースカロライナ州 Greenville City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)271-2616 Toll Free(877)271-2616
9/17	Mon	  G.R. Whitfield School	ホテルロビー集合 G.R. Whitfield School 海外実地研究 TAG 教室で打ち合わせ・説明 (Ms. Pam Justesen 他) 授業見学 Grade1 Grade2 Media Grade7 Kindergarten Grade8 Pre-K Grade5 Reading Recovery Art Physical Education TAG 教室でミーティング 教材店見学 ホテル着	Greenville 同上

9/18	Tue	 <p>G.R. Whitfield School</p>	<p>ホテルロビー集合 G.R. Whitfield School 海外実地研究 TAG 教室で打ち合わせ 8:50-9:40 吉浪授業 9:36-10:21 小野さん授業 11:15-12:00 大村君授業 TAG 教室でミーティング Washington, N.C. 博物館見学 ホテル着</p>	Greenville 同上
9/19	Wed	 <p>Duke University</p>	<p>ホテルロビー集合 グリーンビルローリー ホテル着・チェックイン Duke University 見学 海外実地研究 ホテル着</p>	<p>米国ノースカロライナ州 Sheraton Raleigh 421 S. Salisbury Street Raleigh, NC 27601 TEL (919)834-9900 Raleigh</p>
9/20	Thu	 <p>display in Exploris Middle school 「our 8th grade family photograph」</p>	<p>ホテルロビー集合 Exploris Middle school 海外実地研究 数学、言語授業見学 日本文化紹介 総合的な学習見学 博物館見学 ホテル着</p>	Raliegh 同上
9/21	Fri	<p>ローリー -ワシントン 1025-1131 UA-7139 ワシントン-N.Yラグラディア 1240-1356 UA-7365</p> 	<p>ホテルロビー集合 ローリー -ワシントン ワシントン-N.Yラグラディア ホテル着・チェックイン ホテルロビー集合 N.Y.文化体験 「THE PHANTOM OF THE OPERA」 観劇 ホテル着</p>	<p>New York Raddison Lexingtonhotel 511 Lexington Avenue 48th street New York 10017 TEL (212)755-4400</p>

9/22	Sat		ホテルロビー集合 N.Y. 文化体験 N.Y.国際連合本部 ワールドトレードセンター跡地 ウェスト、イーストビレッジ ソーホビレッジ、リトルイタリ ア、チャイナタウン、自由の女 神など N.Y.現代美術館 MONA ホテル着	New York 同上
9/23 9/24	Sun Mon	ケネディ 1230-1525 成田 NH-9 成田 1725-1900 広島 NH-3129	ホテル出発 ケネディ空港へ ケネディー成田 成田ー広島 広島空港解散	機中泊

3 実地研究授業

3.1 単元等名 第5学年言語「地球の人も言語もつながっている！ー日本の文化と言語ー」

3.2 事前準備

〈単元設定の理由〉

本授業のねらいは、「世界が平和であればこそ人や文化や言語も交流し、また互いの文化や言語を尊重し合えることに気づくこと」である。言葉は、その国や土地の歴史や文化を背景にして生まれ、そこに暮らす人々によって育まれる。日本の歴史や文化を背景にして生まれた仮名文字や豊かな言葉を、文字や写真と共に紹介することで、日本の豊かな自然や文化や、人々が自然と共生していることを伝える。さらに、簡単な日本語を紹介し、言葉をとおしてコミュニケーションをはかる。

その日本の仮名文字は中国の漢字から発明された。また日本語の中には、「コミュニケーション」など、英語から取り入れられた多くの外来語も存在し、「judo」など日本語が英語の中で使われている言葉もある。世界中の国々の人々が交流し、それに伴って「言葉」も交流し、影響をうけ合っつながっていることを伝える。そして、世界が平和であればこそ人や文化や言語も交流し、また互いの文化や言語を尊重し合えることに気づかせる。以上のようなねらいで、本単元を設定した。

〈準備物〉

写真に日本語とローマ字をつけた大判カルタ、ローマ字の音を付した五十音図、日本の児童生徒と私が描いた絵手紙三十枚、筆ペン

3.3 学習指導案

The practical educational studies of an overseas experience A postgraduate course of pedagogy

A specialization of linguistic and cultural pedagogy A major of Japanese cultural pedagogy

Lesson Title: Even people on the earth and language are also connecting! ~Japanese culture and language~

Lesson Author: Norika Yoshinami

Date: 18 September 2007

Grade Level(s): 5

Subject(s): language

Description: Language is produced with a background of the history and the culture in that country. People living there has brought it up. A *kana* (the Japanese syllabary) and other plentiful words are also originated through the background of Japanese history and culture. By showing these words with some pictures and the letters, I want to tell students the Japanese rich nature and culture. At the same time I want to tell them that Japanese people feel taste and elegance by living together with nature.

There are many adopted words from English. People all over the world often exchange each other, that's why "language" has been exchanged and influenced. I want students to know it and to be able to communicate with each other by using easy Japanese words.

Goal: This lesson will encourage students to use higher level thinking skills and will help them to learn to better cooperate with their peers. It will also help students develop a respect for cultures different from their own.

Objectives: As the result of this activity, the students will able to:

- 1 Understand a *kana* (the Japanese syllabary) produced from a Chinese character and plentiful words brought up through the background of Japanese culture.
- 2 Understand that language is exchanged and communicate with each other by using easy Japanese words.

Materials, Resources and Technology: For this particular lesson, the teacher would need a video tape about the life of Japanese elementary school and Junior high school, cards and *cartas* which have some Japanese words giving the pronunciation of a Roman characters and pictures, and a picture letter.

Procedure:

Activity	attention	evaluation
1. Know the Japanese greetings. Watch the pictures about the life of the Japanese school.	• use pictures and cards.	Watch the students' reactions.
2. Play the Japanese card game(<i>carta</i>).	• each Japanese letter is given the pronunciation of a Roman character.	
3. Back to the time 1,200 years ago when a <i>hiragana</i> (the cursive <i>kana</i> character) was made.	• show students some pictures of the life or clothes in <i>Heian</i> period(about 1,200 years ago).	
4. Understand that a <i>hiragana</i> and a <i>katakana</i> (the square form of <i>kana</i>) are		

<p>invented from a <i>kanji</i> (a Chinese character of China).</p> <p>5. Choose the card of which a <i>hiragana</i> or a <i>katakana</i> comes from which a <i>kanji</i>. For example: い from 以, す from 寸, イ from 伊, 口 from 呂 and so on.</p> <p>6. Know that there are many adopted words from English in Japanese.</p> <p>7. Know that there are many adopted words from Japanese in English</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Understand that people on the earth exchange each other and so “language” is also exchanged and influenced all over the world.</p> </div> <p>8. Write favorite Japanese words on a picture card.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • let students choose same shape of letter or easy letter to guess. • let students enjoy it just like a game. • let students combine a picture and a photo. • let students enjoy themselves. <p>for example: komyunikeishon (communication), tekist (text), rida (leader), imeji (image), and so on.</p> <p>for example: ekiden, judo, kendo, tsunami, and so on. Write on the whiteboard.</p> <ul style="list-style-type: none"> • pictures are heartwarming <p>for example: sakura (cherry blossoms), fujisan (Mt. Fuji), and so on.</p>
--	--

3.4 授業の実際

教室で生徒達の前に立つと、生徒達の学びたいという熱い思いをその表情から感じ取ることができた。そこで私もしっかりと心を開いて、コミュニケーションを取り、生徒の意見や活動を引き出しながら授業を行いたいと考えた。

導入は、挨拶から始めた。英語での挨拶の後、日本語の挨拶の言葉を教えた。私たちが他言語を学習するときも、挨拶の言葉を始めに覚えてコミュニケーションを図りたいと考える。そこで、日本語での基本的な挨拶の言葉である「こんにちは」「おはようございます」「こんばんは」「ありがとう」「さようなら」を学習した。

次に、日本語のかるたとりを行った。グループに分かれてということも考えたが、全員に日本の自然や文化を伝えながら活動したいと考えて、挙手を促し、指名した児童一名を前に呼び、カードを選ばせた。「はなび」「さくら」など、そのカードの日本語をみんなで声に出して読み、言葉に慣れさせていった。児童は積極的に挙手をし、発言した。全員が発言できるように私も意識して指名し、担任教諭やTAG教諭も児童全体の様子を見ながら、「この子にもあてて」とサインを送ってくださった。発言した児童がみんなの前で発言し、満足な表情を見せることが嬉しかった。お互いの発表を聞き合い認め合える、あたたかい雰囲気、クラスのなかにあふれているクラスであった。

その後、五十音図を示して、日本語はこの五十音を組み合わせ、様々な言葉を表すことを説明した。続いて「人や言葉や文化が自由に交流するには条件がある。それは何でしょうか。」という中心発問を行った。「それは世界が平和であること」「平和であればこそ、人も文化も互いの国との違いを認め合い、交流する」ということを、二度繰り返し、強いメッセージとして児童達に伝えた。

続いて、日本語になっている英語を紹介した。

最後に、児童それぞれに絵手紙を配り、好きな日本語を筆ペンで書かせた。児童は、書きたい言葉を選び、分からないことは指導者に質問しながら、日本語を書いた。日本の絵を子どもが描いて、

アメリカの子どもが日本語を書いた合作である絵手紙を、子どもたちに贈り、感謝の言葉を述べて、授業を終えた。

3.5 考察

児童は、興味・関心をもち、非常に意欲的に学習に取り組んだ。新しいものを学ぼうとする意欲にあふれて、授業内容を聞き、活動に取り組んだ。お互いの発言を良く聞き合い、共に学ぼうとする学習集団であった。4名で1グループを作り、授業をしていたが、活動の時もよく同じグループの子どもどうしが関わり合い、声も掛け合っていた。分からないことは、積極的に質問する力もあった。

「人や言葉や文化が自由に交流するには条件がある。それは何か。」という中心発問には、発言がなかったが、「それは世界が平和であること」「平和であればこそ、人も文化も互いの国との違いを認め合い、交流し合うことができる」ということを二度繰り返し、強いメッセージとして伝えた。これは、児童から答えを引き出したかったが、少し難しかったのか発言はなかった。

しかし、最後に絵手紙に書いた言葉を見るとそこにその答えは表れていた。絵手紙に児童が書いた日本語は、次のとおりである。(自分の名前、家族の名前、絵手紙に書いてあるものの名前たとえば、「ひので」「だるま」「ふうりん」など、「ありがとう」などの挨拶の言葉、「へいわ」など)

私は、絵手紙に日本語を書かせて、その余韻の中で終わればよいかと活動で終わらせたことが課題である。児童の書いた言葉を発表させて、互いの考えを知り合い、児童の書いたことから分かることを、この授業で一番伝えたいメッセージにつなげてまとめを行うべきであった。

それは、次のようなまとめである。

「みんなが書いた言葉は、次のようでした。自分の名前、家族の名前、友達の名前、『ありがとう』『へいわ』などです。このように自分を大切にし、自分の家族や、周りの人を大切に思う気持ちや違う国の言葉や文化を知ろうという思いが、平和ということです。みんなのその気持ちを大切にしてください。」

私は、このまとめを手紙にして、G.R.Whitfield School の子どもたちと先生方に、感謝の手紙と共に送ることを予定している。

この授業の後、絵手紙もカルタも五十音表も、すべてクラスの子どもたちに渡した。日本の子どもが絵を描いて、アメリカの子どもが文字を書いた絵手紙を、子どもたちはとても大事そうに持っていてくれた。担任の先生も、五十音表をすぐにクラス掲示に貼ってくださった。先生方のサポートのおかげで授業ができ、またその絵手紙や掲示物を見て、メッセージを思い出してくれるのではないかと考えている。ヒロシマから来た人が「平和が大事」って言っていたなあというメッセージが息づいてくれることを期待している。

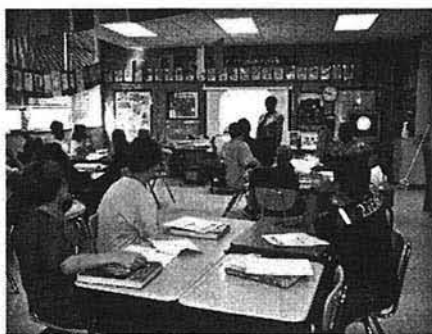


写真1 授業したクラスの先生と児童



写真2 授業したクラスの児童と

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

今回、他国の学校を訪問し、授業も含めた実地研究ができたことで、より視野が広がり、日本の教育においてはどうかすればよいかということへの多くの示唆を与えられた。

まず、G.R.Whitfield School で感じたこと、学んだことを、三点に整理する。



写真3 第1学年の児童

① 子ども観

子どもは、学習規律が身に付いており、その時間の目的に向かって今何をしないといけな
いか、考えて活動していた。分からないことは質問し、考えようとしていた。互いの意見を
聞き合い関わり合い、「発表してごらん」などと声をかけ合う姿も見られた。日頃の集団作り
の成果であると考えられる。また多様性は豊かなことであると、環境の中で学ぶことができ
ている。他民族国家であり、同じ敷地内に異校種・異学年の多くの子どもたちがいることで、コ
ミュニケーションの基盤となる、互いを認め大切にし、尊重し合う心が自然に養われている
のではないかと考える。

② 学校観

先生方が専門性を発揮し、かつよく連携を取っておられる。教科担任の教室に、クラス
ごとに児童・生徒が移動して授業が行われていた。教室は、その担当の先生の専門性が生か
された教室環境が工夫されており、学びの雰囲気醸成されていた。

また多くのスタッフ
が、学校内を行き来さ
れ、様々な仕事をする
人に支えられて自分達
が学んでいることが、
自然に伝わってくる学
校であった。先生



写真4 特別支援学級



写真5 スタッフの写真と歓迎の掲示物

方は、コミュニケーションを交わし、子どもについての情報を交流していた。TAG Teacher Ms. Pam Justesen は、各クラスの児童・生徒の様子をよく把握しておられ、声をかけておられた。生徒の進度に応じ特別支援学級もあり、自分で手作りした本を、大切に文字を追いながら音読していた。言葉の獲得を、学習意欲を伴わせて行っていた。また、それぞれの個人目標をもたせ、それを達成するとタグシールを渡す取り組みもされていた。一人ひとりの児童・生徒の状況を良く把握し、努力や成果を評価し、大切にしている学校であった。これは、日本の学校でも大切にされていることであるが、改めてその重要性を再確認した。

③言語教育

「Reading Recovery」という授業があり、その授業は「Reading Recovery」の教室で行われ、言語環境が整っていた。写真6～9のように単語カードなどの掲示物や教材が多数そろっており、図書も豊富であった。言語習得や「Reading」が重要であると位置付けられている

ことがよく分かる。フォニックスの練習やボイストレーニングや単語作りなど、様々な方法で学習が行われていた。「それぞれの子どものもっている文化や背景が異なっているので、その文化や背景に合わせて学習を行う。」という言葉が印象的であった。日本は欧米のような多民族国家ではないが、この考えは、日本での国語教育においても大切なことであると考えられる。

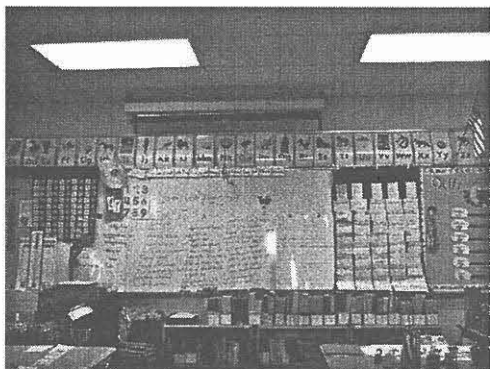


写真6 「Reading Recovery」Room 掲示物と教材



写真7 「Reading Recovery」Room 教具



写真8 「Reading Recovery」Room
担当教諭と教具・図書

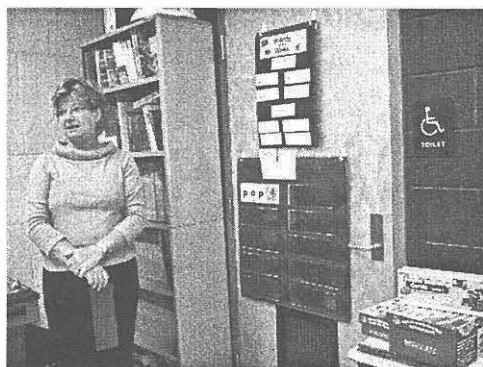


写真9 「Reading Recovery」Room
担当教諭と教具

次に、Exploris middle school における実地研究で学んだことを示す。

principal の学校の教育方針についての説明が、強く印象に残った。

Global learning= “How you learn is as important as what you learn.”

つまり、「どうやって学ぶかということが、何を学ぶかということと同じくらい大切だ、それがグローバルラーニングだ。」ということである。内容を学ぶことはもちろん、学び方を学ぶことが大切であるということである。これは、学習者に学び方つまり自己学習力をつけるということである。私は日本の国語教育においても、自己学習力が重要なことであると考え、そのための方法も研究しており、重要な示唆を与えられた。

その内容として具体的に、次の三点を上げられた。

① Integrated curriculum 統合したカリキュラムを作っている。

② Independent learners

子どもたちが自主的に学習し、子どもたちが自分で伸びてゆく。子どもたちが運転席に乗っていると考える。その学びの時は、コーチとしての教諭である。

③ Critical thinkers 批判的思考をもたせる。

そのための方法は、Socratic Seminar 対話を重視する、Debate ディベートを行う、「P.G」という 15 人程度のグループに分けた学習する、などである。資料を読み、それについての討論を行うなどの授業をしている。あるいは教室に 4 コーナーを作り、意見ごとにコーナーに分かれてディベートを行う。そして自分の考えが変わったら場所を変わり、その理由を述べる。

見学させていただいた授業には、この教育方針がよく表れていた。「Water Works」という学習で、生徒は自分の課題に向かって主体的に学習していた。パソコンや文献で必要な情報を探し、情報収集が終わると自分たちのグループで、自主的にディスカッションを行っていた。(写真 10～13)

水のことにして事前学習を行い、質問を考えた後、ゲストティーチャーを招いてのインタビューが行われた。そのインタビューでは、生徒達が自分たちの言葉で、聞き取りを行っていた。ゲストティーチャーが話されることに対して、新たにわき起こってくる疑問をまた質問するという、生きたコミュニケーションであった。記録の写真を撮影する、水を出すということも、すべて生徒達が行っていた。

先生方は、カリキュラムを開発し、生徒達に「どうやって学ぶか」という力をつけておられる。私は、子どもたちを学びの主体とし、子どもたちが探究すること、自己学習力をつけることが大切であると考えている。生きた言語活用力が身についた学習を見せていただき、その学習の大切さを改めて感じ、多くの示唆を得ることができた。

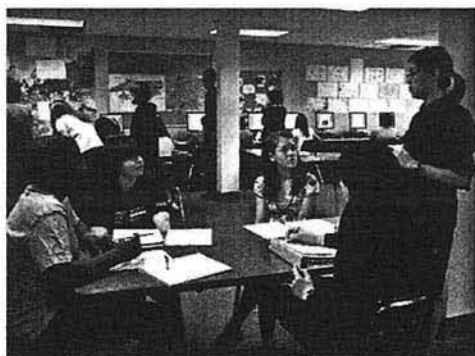


写真 10



写真 11



写真 12



写真 13

「Water Works」 Exploris middle school 8th Grade

4.2 自分自身についての変容

今回の研修で、多くの貴重な体験をすることができ、さまざまなことを感じ認識することができた。「言葉」「行動化」「広い視野」の大切さについても、より多くのことを考えた。

「言葉というのは、自分のためだけではなく、人のために使うとよい。例えば『My pleasure』と言うと、言われた相手が嬉しい。」「一つ伝わると、本当に子どもは喜ぶ。別の回路が伝わったような気持ちになる。一つ言葉を覚えると、思考の回路も増える。」

研修の中で伺った、言葉である。今回の研修で、伝わることの嬉しさや大切さ、逆に言葉が分からなくて伝わらないことのもどかしさ、対話の大切さ、相手意識をもち相手の言葉を受け止めることの大切さなどを、身をもって体験した。N.C.の先生方がしてくださったように、言葉を受け止められると、自分の存在全体を受け止められているような気持ちになる。それは、同じ言語を共有するどうしも同じである。私は改めて「言葉の大切さ」「コミュニケーションの大切さ」を再認識した。

また、今回の体験をとおして私自身も、思い切って話してみよう、少し勇気が必要なことでも質問してみようとするようになった。行動に移してみよう、思いは言葉にして伝えようという気持ちが強くなった。「こんにちは」「ありがとう」を表情豊かに相手に伝えたいと思う。

さらに、物事をいろいろな角度から見て考え、より広い視野をもちたいと思うようになった。実際に見てみなければ分からないということを実感したからである。たとえば、現地に行く前に私はニューヨークを、刺激も多いが冷たい都市と先入観をもって捉えていた。しかし、実際に現地に行き、市内の様々な場所を見ると、人々が力強く生きている可能性に溢れる街、色々な国の人々や文化が混在し、その中で生き抜こうとするエネルギーに満ちた街であるということが分かった。情報で伝えられるある一面だけでは、判断できない、多面的に見ることの必要性を感じた。そして、広い視野をもち、人に豊かさを与えることが自分の喜びとなるような生き方がしたいと考えるようになった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

私は、今回の国際交流をとおして、人々は互いの違いを理解し尊重した上で、つながり合うことができると強く実感した。逆に、つながり合うためには、互いのことを学び、理解し合うことが大切であると感じた。現代社会は情報も発達しているが、メディアの情報だけではその国の人々の日常でまでは伝わってこない、あるいは、情報の一面しか見えない場合もある。それだからこそ、人と人との国際交流・国際協力の必要性があると感じた。

今回の体験で、多くの人のあたたかさにふれることができた。Ms. Pam Justesen は、私たちに現地の教育について詳しく教えてくださり、また実地研究のためにたいへんな協力をしてくださった。それは、これまでのGPS Cをはじめとした現地との交流があり、それによって現地の方々との関係が築かれてきたことによるものが大きく、これまでに行われてきた活動や関わってこられたの方々にも感謝している。Ms. Pam Justesen は、広島に来られたときの写真や記録をととても大切にアルバムに残しておられ、私たちにも見せてくださった。これまでのGPS Cの活動の蓄積や信頼関係の大きさを感じさせられた。

これから出会う生徒達にも、世界を見ることの大切さ、さまざまな違いを超えて人々が交流しあい、コミュニケーションし、理解し合うことの大切さを、伝えていきたい。この体験をとおして、より実感を伴った言葉で、子どもたちに語っていくことができる。同世代の児童・生徒どうしが国際交流する方法も考えていきたい。また、ヒロシマに住んでいるものとして、「平

和」というメッセージを忘れてはならないと感じた。

私は、今後「体験型海外教育実地研究」で学んだことを、教育現場で児童・生徒に返すという形で生かしていきたい。その方法は、次の3点を考えている。

- ① グローバルな視野をもつことや、国際交流や体験と大切さを、体験をとおした言葉で語っていく。子どもどうしの交流を進める。
- ② グローバルな視野をもつために、国際問題や国際社会の情勢にもっと興味・関心をもたせる。そのために、新聞などを使って教材開発や単元づくりを行う。
- ③ 児童・生徒に言葉の力を付けるためにどうしたらよいか、国語の指導者として、言語の教育をすることに生かす。

これからの社会の中で必要とされる教育は、さまざまな価値観や考え方を乗り越えて、その様々な声がどう向き合い、対決し、同調し合いながら、新しい何を生み出せるのかということへ、その意義を見出していく。学びは、自分自身のアイデンティティをつくり、それらを包み込む社会・世界との関係をつくり、子どもの側から再定義・再構成していく活動と捉えられるようになってきた。そうだとすれば、学ぶことは単なる模倣や練習ではなく、学び自体がいろいろな世界に参加することを意味し、かつ人々と関係をつくりだしながら社会へ参加することになる。今回の体験や授業実践がこれからの教育実践に生きていくと確信している。

5 おわりに

今回の体験をとおして、私は、より広い視野をもち、人に豊かさを与えることが自分の喜びとなるような生き方がしたいと考えるようになった。「体験型海外実地研究」のプログラムの内容と多くの人との出会いが、それをもたらしてくれた。言語を教えるという自分の仕事をとおして、自分が感じた言葉の大切さや言葉の学びを子どもたちや他の人々に伝えていきたいと思う。今回この研修を企画・運営してくださり、また多くのことを教えていただいた先生方に深く感謝する。



写真 14 お世話になった先生方

引用・参考文献

- 『教室ふれ合い英語表現集』 ピアソン・エデュケーソン
『学校用語英語小事典』 大修館書店
『学びを紡ぐ共同体としての国語教室づくり』 河野順子 明治図書 2001